銀の道探訪マップ①

大田市温泉津町～大森町～荻原編

銀の道は、大田市大森町の大森代官所を起点とし、尾道市まで約一三〇キロの道のりである。

毛利氏支配時代は大森から温泉津町沖泊へのルートが、それ以前は海への最短ルートである仁摩町鞆ケ浦への道が利用されていた。

沖泊への道は降路坂を越える一二キロのトレッキングコースとなっており、道沿いには多様な遺跡が点在している。尾道へのルートは、百羅漢の前を通り、上佐摩から荻原をぬけて、邑智郡美郷町との境界へと続いている。

この区間の主な見どころ

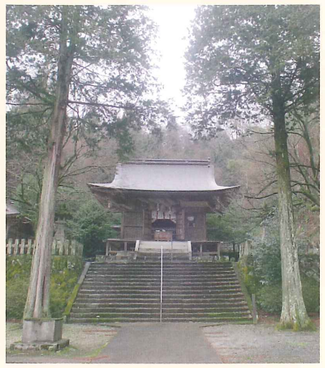
- 城上神社（鳴き龍天井）
- 大森代官所跡（石見銀山資料館）
- 熊谷家住宅
- 旧河島家住宅
- 井戸神社
- 御銀蔵跡
- 西性寺（こて絵）
- 五百羅漢
- 梅雨左衛門の碑
- 荻原千軒
- 大久保間歩（内部未公開）
- 龍源寺間歩
- 降路坂
- 瑞泉寺
- 金柄杓の井戸
- 松山の道標
- やきものの里
- 忠左衛門堂
- 内藤家（なまこ壁、水路石垣）
- 沖泊（鼻ぐり石、恵比須神社）

芋代官さん

俗に「芋代官さん」と愛称される「井戸平左衛門」は、飢饉に苦しむ人々にサツマイモの栽培を勧め、多くの領民を救った。

平左衛門は、もともと武蔵国（今の東京）に生まれたが、一七三一年に六〇才という高齢で大森代官に任命された。その頃は、「享保の大飢饉」といわれる大変な時代であった。平左衛門は、自らの財産や裕福な農民から募ったお金を資金として、米を購入するとともに、幕府の許可を待たずして、代官所の米蔵を開き飢人に米を与えたと伝えられている。

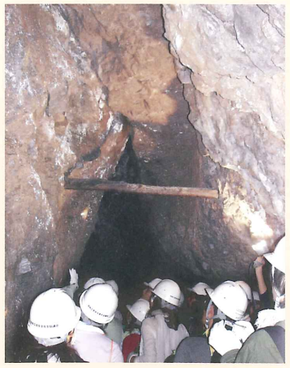
また、薩摩国（鹿児島県）で栽培されていたサツマイモの話を聞いた平左衛門は、その入手を図り、苦労の末手に入れた種芋を配って栽培をすすめた。こうしてサツマイモの栽培により飢饉をしのぎ、石見銀山領では餓死するものがいなかったという。後年、これに感謝した人々によって各村々に頌徳碑が建てられ、その数は五百基以上にのぼり、遠く鳥取県でも見られる。


井戸神社

大久保間歩（おおくぼまぶ）

数ある石見銀山の間歩（坑道）の中でも、群を抜いて大きいのがこの大久保間歩だ。坑道名は、銀山街道尾道ルートを開発した初代銀山奉行「大久保長安」の名前に由来している。間歩の中は見上げるほど高いところもあり、巡検した役人が馬に乗ったままこの坑道に入ったという話が伝えられている。

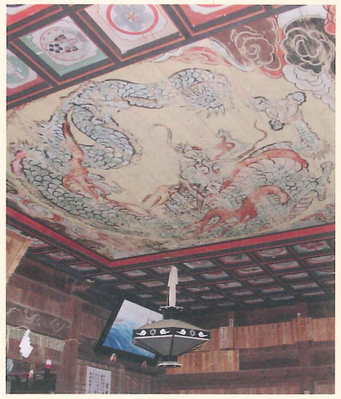
ただし、充分な安全対策が講じられるまでは、一般公開されない。


大久保間歩

城上（きがみ）神社の鳴き龍

大森という地名は、この神社の裏山がうっそうとした森であったことから由来しているという。一八一二年に建造された重層式拝殿は、近在ではまれな建築様式。初代銀山奉行「大久保長安」ゆかりの遺物「能面」「熨斗目（のしめ）」などが残る。

拝殿の格天井には極彩色の龍が描かれており、その下で手をたたくとリーンリーンと響き、まるで龍の鳴き声のように聞こえる。


天井絵

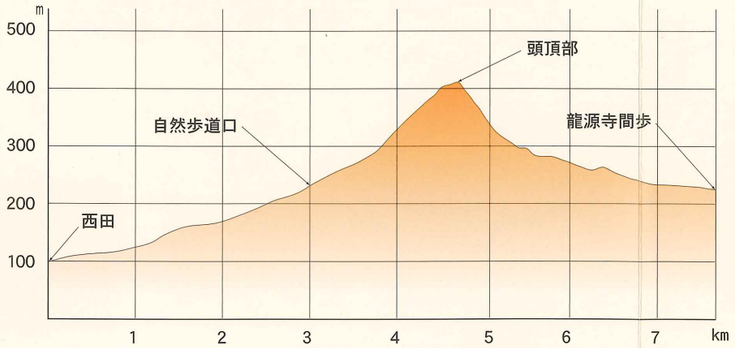
降路坂（ごうろざか）

龍源寺間歩の前を通り、最後の民家を過ぎると銀の道沖泊コース最大の難所、降路坂にさしかかる。

周辺の森は杉や照葉樹が広がり、深山幽谷の趣が感じられる。また頂上付近では視界が開けて、日本海さらには遠く日御碕を見ることができる。

峠には妖怪退治伝説も残っており、西田地区の人たちが祀った、地蔵像の台座跡が確認できる。

降路坂から日本海を望む



降路坂縦断勾配図

よずくはで

「よずく」とは、鳥のフクロウのこと。四角錐の塔の上で、フクロウが羽を休めているように見えることから、「よずくはで」と呼ばれるようになった。言い伝えでは、神代の昔、西田地区の里人が大風で稲ハデが倒れて難儀しているところ、この地を訪れた「上津綿津美神（うわづわたつみのかみ）」と「上筒男神（うわづつおのかみ）」が、漁網を干す方法をとり入れた、ハデの作り方を教えたことから始まったという。この方法は、狭い面積を効率的に使い、木材が少なくてすむ上に、風で倒れる心配が少ない。

よずくはでは、高さが約五メートル、一基に稲束が約五〇〇束（五俵分）架けることができる。

西田の秋を飾る風物詩として、十月終わり頃から十一月の初めにかけて見られる。

よずくはで

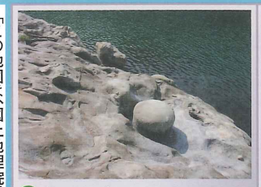
主な連絡先

大田市役所	0854-82-1600
大田市観光協会	0854-82-2555
石見銀山資料館	0854-89-0846
町並み交流センター	0854-89-0330
ゆうゆう館（温泉津）	0855-65-3595
石見銀山観光ガイドの会	0854-89-0120

銀の道関連ホームページ

石見銀山ホームページ
http://www2.pref.shimane.jp/ginzan/
石見銀山ミュージアム
http://www.iwamiginzan-muse.jp/

制作　国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所
問い合わせ先：「銀の道交流会事務局」 TEL 0855-87-0775（Fax兼用）



⑩鼻ぐり岩
毛利氏支配時代は温泉津沖泊が銀積出港だった。いまでもたくさんの鼻ぐり岩（船を係留する岩）を目にすることができる。

⑨内藤家住宅
回船問屋「梅田屋」の建物だった内藤家住宅には、なまこ壁や艀（はしけ）用の水路に残る古い石垣が、当時を彷彿とさせる。

⑧松山の道標
産業道路とつながる分岐点に、福光石で造られた古い道標が残っている。「右銀山大森・いづも大社」と刻まれている。

⑦金柄杓（かなびしゃく）の井戸
その昔、泉の水の美味しさに感心した大森代官が金属製の柄杓を奉納し、このように呼ばれるようになった。

⑥石畳の古道
西田から清水に向かう山道に古い石畳が残っている。この道は尾道ルート開発後も、温泉津港からの物資輸送路として利用された。

⑤瑞泉寺
瑞泉寺12世「自顕師」が吉野葛の製法を伝え、「西田葛」の名声はますます高まった。街道を行く旅人の土産として重宝されていた。

④降路坂（ごうろざか）
降路坂の峠には1940年代まで茶店があり、甘酒や茶菓子が売られていた。地蔵様が祭られていたという台座が今も残っている。

③龍源寺間歩（りゅうげんしまぶ）
観光用に公開されている坑道跡。この間歩は江戸時代初期に開発されたもの。岩壁にノミ跡が残っている。

「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。（承認番号　平18　中複　第150号）」

出雲・松江⇗
大田⇗
⇩江津・浜田
⇦大田
三次・呉⇨
川本⇨
瀬戸内へ
仁万交差点まで2.3km
仁万交差点まで2.8km
銀の道「鞆ヶ浦道」
銀の道「温泉津・沖泊道」
大森から 約13km
温泉津詳細図
コラム面に詳細図
不明ルート
中国自然歩道
代官所前駐車場
石見銀山公園
龍源寺間歩有料駐車場
新切間歩
大久保間歩（内部未公開）
やきものの里
ゆうゆう館
行き止まり
旧）小松地小学校
1.0km
3.9km
0.7km
2.7km
1.1km
2.7km
0.8km
1.2km
1.4km
2.3km
1.5km
1.06km
2.3km

複製不許可

温泉津詳細図

凡例

━━	銀の道（車）※1	━━	車輌迂回路
┅┅	銀の道（歩）※2	●	おもな施設
道	道標・石碑	P	駐車場・駐車可能場所
常	常夜灯	🚻	トイレ
地	地蔵・石仏	♿	トイレ（車イス可）
辻	辻堂・祠	🍴	レストラン・食堂

※1 銀の道に最も近いと思われる車道（道路幅も狭く通行困難な部分あり）。※2 銀の道と思われる小道で、道路幅が非常に狭い車道を含む（家屋の密集や草木の繁茂などで、踏破できない場所もあり）。

「銀の道」の大部分は、地域の皆さんの生活道路です。
交通法規を守り、迷惑運転にならない様、注意して運転して下さい。

①大森代官所跡
江戸時代、幕府は石見銀山を直轄支配し大森に奉行所（後に代官所）を置いた。現在は石見銀山資料館となっている。

②熊谷家住宅
街並み保存地区で最大級の商家建築である「熊谷家住宅」は、県重要文化財となっている。有力商人の地位や生活の変遷がわかる。

③五百羅漢
石窟に安置された五百羅漢像は、江戸時代中期に温泉津町の石工「坪内平七」らによって作られた。地元の福光石が使われている。

④梅雨左衛門の碑（つゆざえもんのひ）
由来は定かでないが、昔から「腰から下の病」に霊験があると言われ、今でも参拝者が絶えない。

⑤荻原（おぎわら）千軒
ここは輸送隊最初の休憩地で、当時は宿場町として栄え、「荻原千軒」と呼ばれるほどにぎわっていた。

⑥箱茂（はこも）のお松
銀の道はここから邑智郡に入る。この松の下は、道行く人々の休憩場所で、当時から「箱茂のお松」と呼ばれ親しまれていた。

⑦井戸平左衛門碑
第19代大森代官「井戸平左衛門」は、救荒作物として甘藷を導入し、多くの命を救った。周辺の町村に報恩碑が多く建てられている。

2006.4